

社団法人 日本物理学会
第 64 期物理学史資料委員会活動報告書

委員長：植松英穂

委員：： 覧具博義（担当理事）、岡本拓司、勝木 渥、神田健三（非会員、中谷宇吉郎雪の科学館長）、小長谷大介、高岩義信、棚橋誠治、藤平 力、永平幸雄、難波忠清、廣政直彦、吉田晴代

1. 物理学史資料委員会会議の開催

下記の通り、3 回の委員会議を開催した。

第 74 回物理学史資料委員会

日時：2008 年 11 月 22 日（土） 13:30～16:00 場所：物理学会会議室

第 75 回物理学史資料委員会

日時：2009 年 3 月 17 日（火） 13:30～16:00 場所：物理学会会議室

第 76 回物理学史資料委員会

日時：2009 年 7 月 24 日（金） 13:30～16:00 場所：物理学会会議室

2. 物理学史資料に関する情報

2-1 中谷宇吉郎 雪の科学館

中谷宇吉郎の資料についてその所在と保存について調査した。中谷に関しての資料は、東京のご遺族が管理していたものの多くが雪の科学館に寄贈・寄託され、北大の門下生が保存してきたものも雪の科学館に集約された。東大受講ノートが製本されて残っていて、一覧表が作られている。雪氷関係の他に、寺田の門下生の論文が約 2500 本ある。2000 年は中谷生誕 100 年だったが、翌 2001 年、北大にできた総合博物館に中谷の資料が展示され、又、2003 年札幌で IUGG（国際測地学地球物理学連合）が開かれ、中谷（と孫野）を記念したシンポジウムが開かれたのを機に中谷の教授室を展示のある部屋として復元させた。又、北大は中谷の資料集（冊子と CD）を作った。

2-2 名古屋大学坂田資料室

2-2-1 名古屋大学が坂田資料室がある建物を改修することになり、来年の 6 月にいったん退避したあと、改修終了後に入る場所について議論している。小林・益川ノーベル賞受賞に関連するノーベル賞展示スペースの一角を坂田資料室として使うことが決まっており、建物の設計をしている。資料目録の作成については、小川修三氏が作成した目録に基づいてデータベースの入力を行っている。

2-2-2 有山資料の会議ノートをワープロで入力して、どのような会議がいつ行われたかが分かるようなリストの作成を始めた。

2-3 物理学会

物理学史資料委員会の設立初期の頃の資料を整理した。

2-4 京都大学理学部物理教室

分光学関係の機器が100点位残っているが、物理教室をリフォームするので、それらの機器を近くの建物に一時的に預けている。この機会に、元物理教室教授の加藤?氏を中心に、それらを整理し直すことになった。三高や四高の実験機器は教育用が多いが、それらの機器は研究用なので貴重である。

2-5 東京大学駒場博物館

小穴純資料が東大駒場博物館に寄贈された。そこで7月18日から9月23日まで特別展「小穴純とレンズの世界」が開催される予定である。資料は1930年代から60年代のもので、文書、日記、手帳、機器類がある。機器は、1930年代から60年代の研究用のもので、レンズやコリメーター等がある。

3. 今後の活動

3-1 資料委員会のホームページの内容を充実していく。

3-2 理事会の資料、物理学史の資料、業務用資料の保管管理がシステマティックではないこと、文書管理のあり方および取り扱いについて事務局で見直す動きがあること、文書整理の基準を見直すことなどを資料委員会として検討する。(物理学会の古い資料は、物理学史資料として貴重なものと見なすことができるので、物理学史としての調査および評価があっても良い。)

3-3 物理学史資料の再調査について。物理学会第64回年次大会で3月28日に行ったシンポジウムで語られたことを参考にしつつ、今後の作業の進め方を具体的に考えるとともに、物理学史資料のデータベースを構築し、研究教育機関および研究者個人の持っている資料の所在などを再調査する。

3-4 『会報第4号』を発行する。

3-5 来春の年次大会(岡山大学)開催時に、広報および仁科芳雄生誕の地であることも考慮し資料展示会を開催する。